

青嵐（あおあらし）とは、「初夏の木々の葉をゆすって吹くやや強い風」、「青々とした山の気」などの意味がある言葉です。逗葉高校を吹き抜けるさわやかな風と、生徒の皆さんのたくましさをイメージしました。第4回は、「18歳選挙権」です。

逗葉高校の皆さん、期末テストお疲れ様でした。手ごたえはいかがでしたか？定期テストは学習内容の定着を確かめるものですから、得点だけに一喜一憂するのではなく、なぜ間違えたのかを確認する誤答分析が重要です。

さて、第3回から間もない発行です。校長って実は作文ばかりしてるのか？と、思っている人もいるかもしれませんね。校長の働きぶりが心配な人は、校長室までお越しください。ドアに在室中の札が出ているときは、基本ウェルカム！です。

ご存知のように公職選挙法が一部改正され、今年の6月に施行されました。いわゆる「18歳選挙権」ということで、テレビや新聞、インターネット上などで話題となっています。3年生の皆さんの中にも、「投票所入場券」（自治体によっては、「お知らせ」だったり「整理券」だったりします）を受け取った人がいますよね。

ではここで、ちょっとデータ紹介です。新たに選挙権を得る若者対象に、NHKが昨年末の時点で行った世論調査によると、今回の参議院選挙に「必ずいく」「行くつもり」の回答を合わせるとおよそ60%でした。平成26年の衆議院選挙の投票率が史上最低の53%未満だったことから考えると、この数字はそれほど低くないと言ってよいと思います。

同時に、約半数近い人たちが投票に行くことに「不安や戸惑いを感じている」という結果も公表されていました。理由としては、「政治についてよくわからない」「誰に、どの政党に投票してよいかわからない」が多かったようです。

「せっかく得た選挙権。権利の行使はしたいし、するべきだと思う。でも、今の政治や候補者についての知識が十分ではないから、不安。」と、悩みつつも「投票には行かなくちゃ」と考える、むしろまじめな若者の姿がうかがえます。

また、政治に関心が「ある」人は半数を超えていたのですが、政治に関する事柄を話題に「しない」人のほうも半数を超えていました。「政治は、自分たちの暮らしに大きく関係してはいるのだろうけれど、なんだか遠い感じで、話題にしたって仕方がない。」という感覚も、一方では強いのかもしれません。

確かに、新たに何かを「わかる」ことは大変ですね。だから「多くの人わからないと言っているのだから、わからなくても仕方ない。」「わからないようにできているのが政治だ。」そして「わからないのに投票するのは、むしろ無責任だから棄権する。」こんな意見を見たり聞いたりしたことはありませんか？一瞬、納得させられそうになりますが、本当にそれでよいのでしょうか？

皆さんには「わからない」を言い訳にしてほしくありません。「わからないから避ける」のではなく、「わかろうと努力し、自分なりに判断する」ことが大切でしょう。18歳という年齢は、それができる精神年齢に達していると公認されたのだと思ってください。

今は、様々な媒体が様々な情報を提供している時代です。調べようと思えばたくさんの情報を得ることができます。いろいろ検索し、比較検討してみるのもよいでしょう。

でも、パソコンやスマホを使わなくとも、立候補者や政党を調べたり比べたりする公式の情報収集ツールが、皆さんの自宅に届きます(私の家には7月1日に届きました)。法律に基づいて各家庭に配布される「選挙公報」です。NHKなどで「政見放送」も放送されていますが、こちらは時間が合わないと見られないので、「選挙権初心者」として、まずは「選挙公報」を少しがんばって読んでみましょう。そして、“今の時点での自分なりの判断”をすればよいのです。

ところで、この社会には様々な18歳がいます。大切に生まれ、全力で将来への夢を追いかけている18歳もいれば、辛い過去や現状を抱えながら、もがいている18歳もいます。それぞれに吹きつける「社会の風」は、決して平等ではないのででしょうし、「風向き」だって急に変わるかもしれません。

先に紹介したNHKの世論調査では、「日本の将来は明るいとは思わない」人が61%に達しており、最大の不安原因は「就職」に関することでした。

ところが「20年後の自分は幸せだ」と思っている人は、なんと75%！でした。私はこの回答結果に、若い皆さんのオプティミズム(楽観主義)を感じて、嬉しくなりました。

「将来に不安はあるけれど、自分は何とか道を切り開き、幸せになっているに違いない。」と思っている人がたくさんいるのです。これはとても健康的な発想です。

自分の人生や世の中を良い方向に変える力を持っているのは、ペシミスト(悲観主義者)ではなく、未来を信じて前向きに努力できるオプティミスト(楽観主義者)だと思います。

「どうせ自分の一票なんて何の力も無い」と考えるか、「この一票が将来を良くする力になるかもしれない」と考えるかは、大切な分かれ目だと思うのですが、いかがでしょう？

最後に、私としては、すでに18歳になった人にもこれからなる人にも、“市民の責任”として「一票の権利」はぜひ行使してほしいと思います。とはいえ、自由投票制による自由選挙ですから、誰に投票するかはもちろん、棄権することもまた自由ということになります。自由に選べる権利をどのように使うかも、まさに自分次第ということです。

ちなみに私は、10日は予定があるので、期日前投票に行きます。